

水都大阪ビジョン2030

【資料編】

(案)

2026年2月
水都大阪コンソーシアム

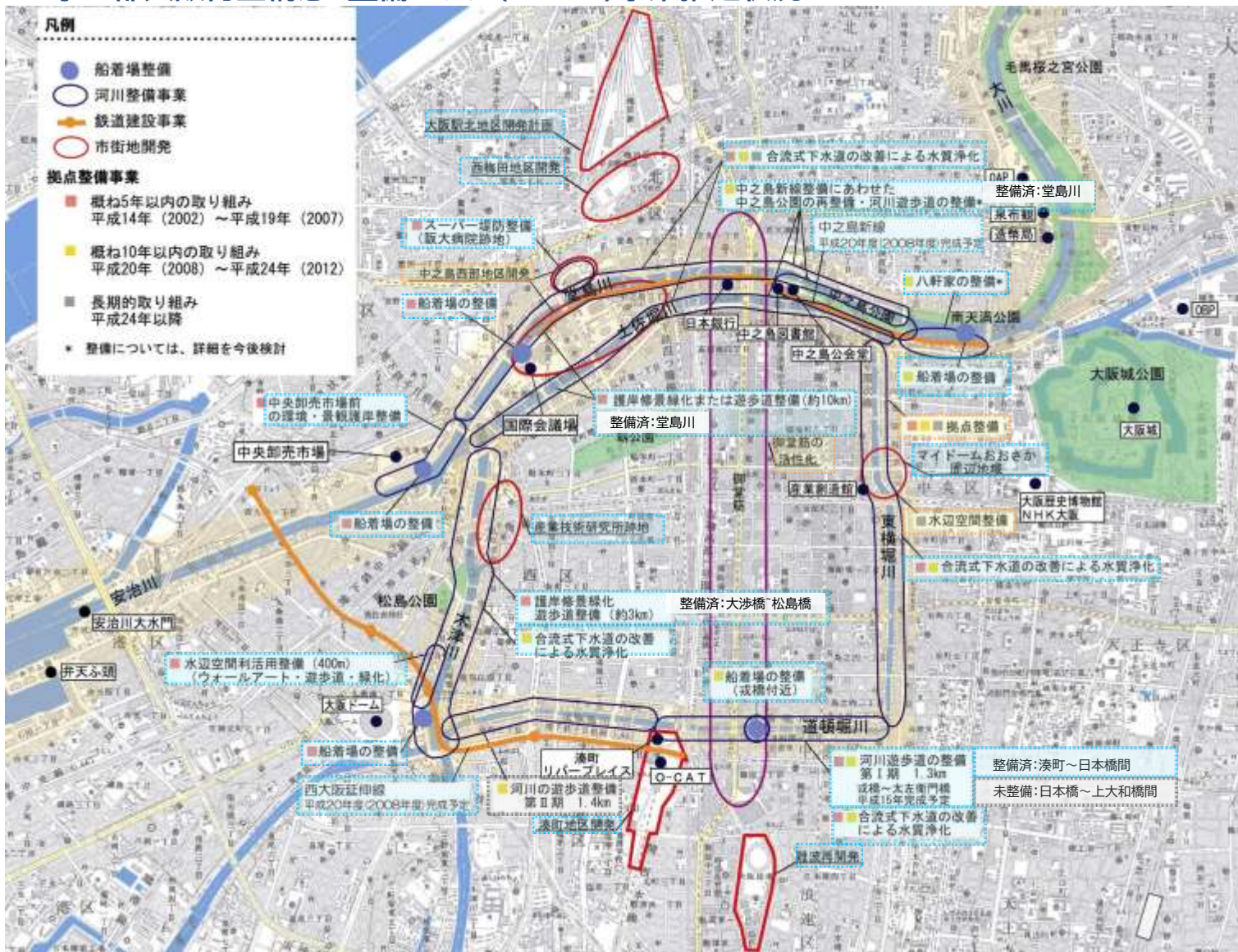


目次

1. 水都大阪再生の振り返り
2. 船着場の整備状況
3. 準則特区指定状況
4. 水都大阪関連施設の整備状況と経年変化
5. 水辺の親水空間整備状況
6. 近年のインバウンドの推移
7. 来阪インバウンドの訪れる場所
8. 舟運利用者数の推移
9. 船着場利用実績の推移
10. 観光船の航路
11. 舟運の安全の状況と対応
12. 万博を契機とした主な取組み
13. 世界の水の都の再生

1. 水都大阪再生の振り返り ①水の都大阪再生構想

■水の都大阪再生構想 整備マップ(2003)事業推進状況

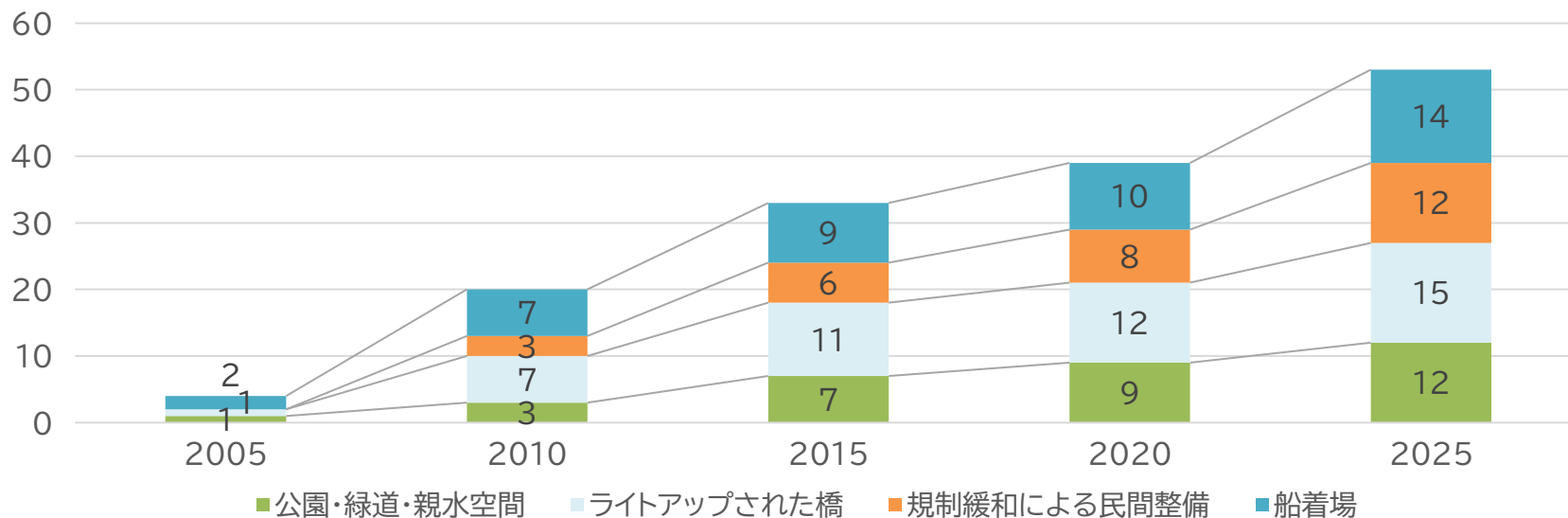


出典:水の都大阪再生協議会
(平成15年3月発行)

※構想策定当時の資料をもとに
推進状況を調査・作成

1. 水都大阪再生の振り返り ③水辺の施設の推移

- 2001年に都市再生プロジェクトに採択されてから、水都大阪2009や水都大阪2015、2025年の大阪・関西万博などを契機として、船着場や水辺の民間拠点、公園・緑道・親水空間など公民による水辺のハード整備が進められてきた。



中之島公園バラ園



堂島川・ガーデンブリッジ



β本町橋



八軒家浜船着場

3. 準則特区指定状況①

- 2016年5月、河川敷地占用許可準則が改正され、営業活動を行う事業者等が河川敷地を占有する場合の占有許可期間の上限が「3年」から、公的主体の場合と同じ「10年」に延長された。
※占有期間は占有の様態等を考慮して適切な期間を設定することとされている。

(2025年12月時点)

指定年月日	指定区域	主な施設等
2011.7.15	八軒家浜： 大川左岸の天満橋～天神橋下流120m	川の駅はちけんや
2012.3.26	北浜： 土佐堀川左岸の難波橋上流320m～淀屋橋	北浜テラス（15件）
2012.3.26	中之島東部： 天神橋上流（剣先）～淀屋橋・銚流橋	中之島公園 R/GARB
2012.3.26	中之島バンクス： 堂島川左岸の玉江橋～堂島大橋	中之島バンクス（カフェ、バー、物販、水上レストラン等）
2012.4.1	道頓堀川： 湊町（浮庭橋）～日本橋	とんぼりリバーウォーク
2012.7.19	若松浜： 堂島川右岸の銚流橋～水晶橋	中之島LOVE CENTRAL
2015.2.23	尻無川河川広場： 尻無川左岸の岩崎橋～岩松橋	TUGBOAT_TAISHO
2016.2.19	安治川右岸（船津橋下流）：安治川右岸船津橋～下流330m	おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅
2021.6.1	東横堀川：本町橋北側水域、本町橋3番・4番	β本町橋
2022.3.7	安治川右岸：桜島入堀上流～1080m	広場・イベント施設、船着場等
2023.11.8	安治川左岸（船津橋下流）	中之島GATEサウスピア
2024.3.29	淀川右岸：淀川河川敷十三エリア	広場・イベント施設、船着場等

※その他、箕面川(箕面市)、狭山池ダム(大阪狭山市)、内川(堺市)がある。

3. 準則特区指定状況②

- 2011年から14年間で、12ヶ所の水辺の拠点整備が行われた。

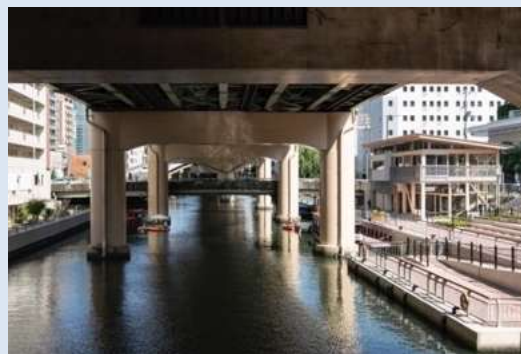
before



after



【TUGBOAT_TAISHO】



【β本町橋】



【中之島GATEサウスピア】

※写真は整備が完了した主なエリア

4. 水都大阪関連施設の整備状況と経年変化

- 2001年の都市再生プロジェクト採択以降、河川区域内に水都大阪関連施設が多数整備されてきた。整備から20年を経過するものも出てきており、更新の対応が必要な時期に来ている。

(2025年12月時点)

種別	名称	区間	管理	経過年数	整備年	
特区賑わい施設	川の駅はちけんや	天神橋～天満橋	民間・府	15	2009	
	GARB・R	天神橋上流～淀屋橋・銚流橋	民間	15	2009	
	北浜テラス	土佐堀川左岸	民間	15	2009	
	国際会議場前中之島バックス	堂島大橋～玉江橋	民間・府	13	2011	
	若松浜「ラブセントラル」	水晶橋～銚流橋	民間・府	10	2013	
	おおさかふくしま・中之島ゲート海の駅	船津橋下流	民間	7	2017	
	タグボート大正	岩崎橋～岩松橋	民間	4	2020	
	β本町橋	本町橋北側	民間	3	2021	
遊歩道	とんぼりリバーウォーク	湊町	市	23	2001	
	とんぼりリバーウォーク	戎橋～太左衛門橋	市	20	2004	
	八軒家浜	天神橋～天満橋	府	16	2008	
	国際会議場前護岸	堂島大橋～玉江橋	府	13	2011	
	(名称不明)	難波橋～天神橋	府	12	2012	
	とんぼりリバーウォーク	太左衛門橋～日本橋	市	12	2009	
	天満天神の森	銚流橋～難波橋	府	9	2015	
	トコトコダンダン	松島橋～大渉橋	府	7	2017	
遊歩道その他・賑わい施設	大阪ふれあいの水辺(砂浜ゾーン)	桜宮橋～源八橋	府	12	2012	
船着場	防災船着場	大阪ドーム岩崎港	岩崎橋～岩松橋	府	20	2004
		大阪ドーム千代崎港	千代崎橋～岩松橋	府	20	2004
		八軒家浜港	天神橋～天満橋	府	16	2008
		福島港(ほたるまち)	玉江橋～田蓼橋	府	16	2008
		大阪国際会議場前港	堂島大橋～玉江橋	府	14	2010
	公共船着場	ローズポート	難波橋～天神橋	府	14	2010
		中央卸売市場前港	船津橋下流	府	14	2010
		本町橋船着場	本町橋北側	市	9	2015
		若松浜港(裁判所前)	水晶橋～銚流橋	府	13	2011
		若松ノ浜港	銚流橋～難波橋	府	11	2013
ライトアップ	護岸	南天満公園 水際照明	天神橋～天満橋	府	14	2010
		国際会議場前護岸	堂島大橋～玉江橋	府	13	2011
		ふれあいの岸辺	難波橋～天神橋	府	12	2012
		ほたるまち前護岸	玉江橋～田蓼橋	府	12	2012
		日本銀行北側護岸	中之島GB～大江橋	府	12	2012
	船着場	ウシオ1工区	田蓼橋～渡辺橋	府	7	2017
		ウシオ2工区	渡辺橋～中之島GB	府	7	2017
		中央公会堂北側護岸(ウシオ3工区)	水晶橋～銚流橋	府	7	2017
		ローズポート	難波橋～天神橋	府	14	2010
		中央卸売市場前港	船津橋下流	府	14	2010
その他	八軒家浜港	天神橋～天満橋	府	14	2010	
	福島港(ほたるまち)	玉江橋～田蓼橋	府	14	2010	
	大阪国際会議場前港	堂島大橋～玉江橋	府	13	2011	
	遊歩道照明	尻無川分岐～千代崎橋	府	15	2009	
	ウォールパインティング	尻無川分岐～千代崎橋	府	13	2011	
堂島大橋下流左岸 樹木	上船津橋～堂島大橋	府	13	2011		

5. 水辺の親水空間整備状況

- 2001年の都市再生プロジェクト採択以降、水の回廊での親水空間整備が進んできた。中之島から大川にかけて、川を眺めながら歩くことができる水辺が連続している一方、東横堀川・木津川・道頓堀川西部はほとんど水辺に近づくことができない。
- 東横堀川の水辺の利活用や、東横堀川らしい賑わいのあり方についてのアンケート結果からも、多様な活動が展開される親水空間、連続して水辺を歩くことができる歩行空間が求められており、開かれた水辺が期待されている。

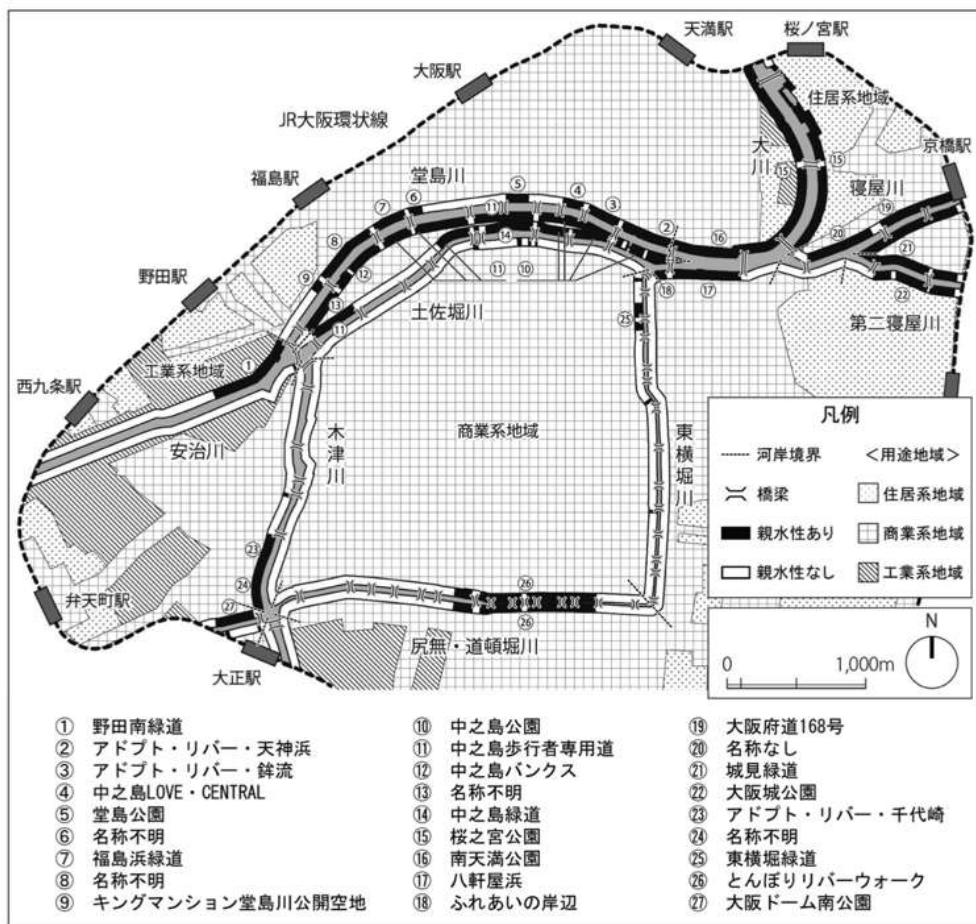


図-1 調査対象河岸の親水性評価と整備箇所

出典：大阪市都心部の河川における親水性の評価とその整備手法の変遷に関する研究（ランドスケープ研究80、2017、667頁）

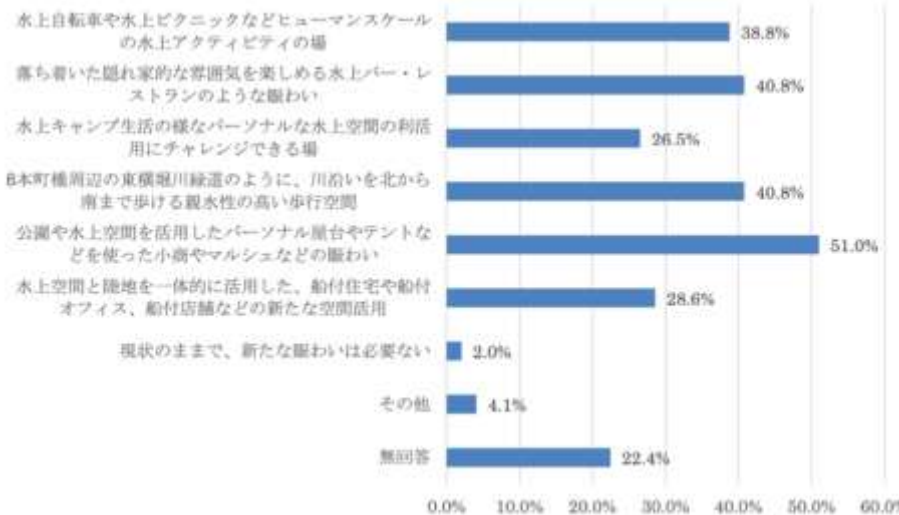


親水性がある水辺(八軒家浜)



親水性のない水辺(東横堀川)

東横堀川のこれからの水辺のあり方についてのアンケート調査

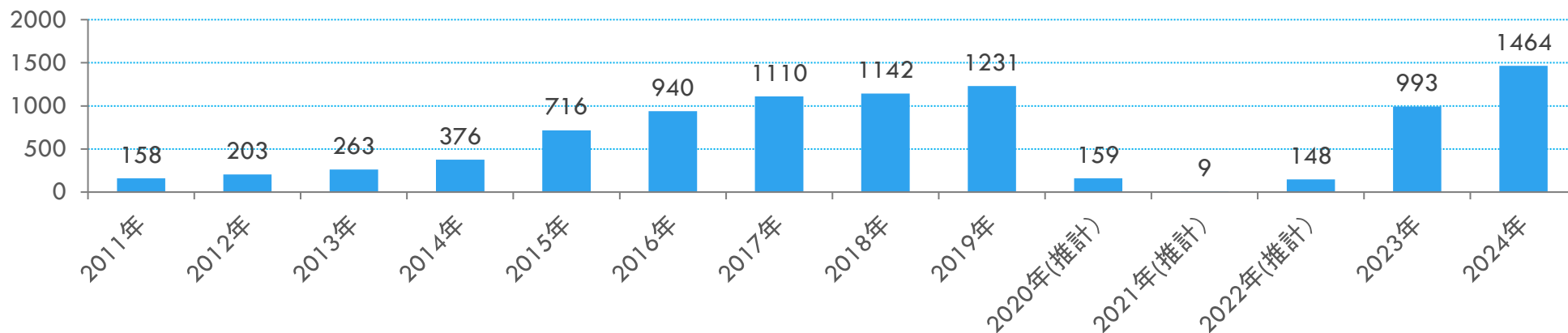


出典：2021年度東横堀川における水都大阪の新たなシンボル空間創出調査研究業務報告書

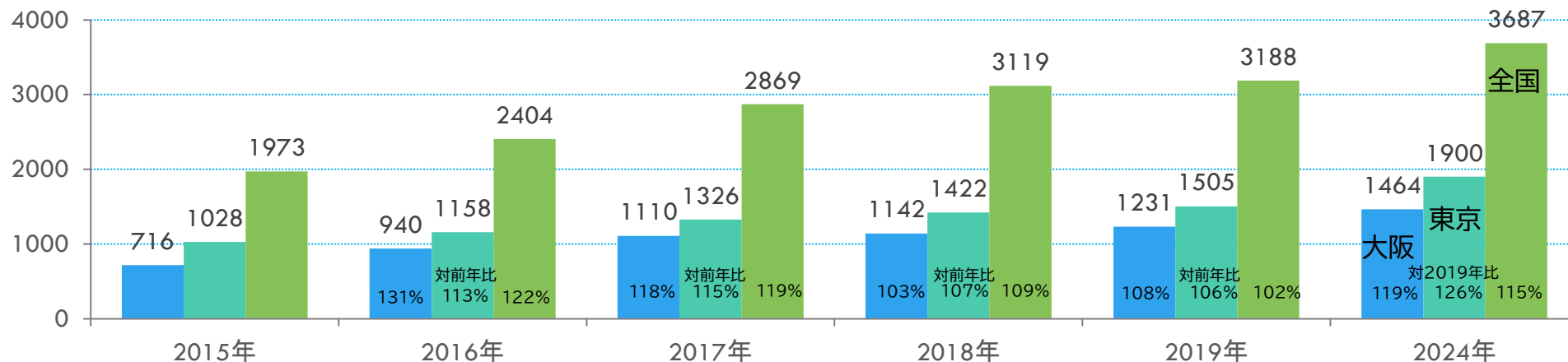
6. 近年のインバウンドの推移

- 新型コロナウイルス感染症拡大や国際情勢の影響により、2020年～2022年の来阪者数は激減したが、2023年より回復を見せ、2024年には1,464万人と過去最高を記録した。
- 同時期に日本を訪れた外国人が3,687万人であることから、訪日客の2.5人に1人は大阪を訪れている状況。
- 2011年からの13年間で来阪外客数は9.2倍となっている。

■来阪外客数の推移(単位:万人)



■来阪外客数の推移(全国、東京との比較)(単位:万人) ※2020年～2023年は未計測



出典:大阪観光局(2020年6月1日,7月31日) ※ JNTO「訪日外客数」、観光庁「訪日外国人消費動向調査」をもとに推計

7. 来阪インバウンドの訪れる場所

- 来阪旅行者の訪れた場所については、1位に「道頓堀(心齋橋・難波・アメリカ村)」、3位に「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン」と水辺に近い観光地が上位となっている。
- 来阪旅行者が大阪と大阪以外で滞在中に何を楽しんだかについては、「街歩き」が3位となり大阪のまち全体を楽しんでいることがわかる一方で、「クルージング(海、河川など)」は20位で、大阪以外で楽しんだ割合の方がわずかに高い結果となった。

■大阪で訪れた場所

順位	訪問先	割合
1	道頓堀 (心齋橋・難波・アメリカ村)	71.0%
2	大阪城	57.8%
3	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	41.5%
4	日本橋	38.1%
5	通天閣 (新世界)	24.5%
6	黒門市場	22.4%
7	梅田スカイビル空中庭園展望台	21.7%
8	海遊館	13.0%
9	天王寺動物園	8.9%
10	勝尾寺	8.2%

■大阪と大阪以外で滞在中に楽しんだこと

順位	項目	大阪で楽しんだこと	大阪以外で楽しんだこと (大阪のみ訪問者を除く)	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37																																																																											
1	ショッピング	82.6%	66.3%	↑	温泉に入浴	13.1%	23.9%	↓	20	クルージング(海、河川など)	7.2%	9.2%	↓	21	音楽・舞台鑑賞	6.7%	7.4%	↓	22	和菓子体験	5.9%	8.6%	↓	23	着付け	4.6%	11.0%	↓	24	その他	4.2%	6.2%	↓	25	スポーツ	3.6%	6.2%	↓	26	治療・検診・美容・エステ	3.0%	3.9%	↓	27	茶道	3.0%	8.0%	↓	28	伝統工芸・クラフト・モノづくり	2.3%	4.9%	↓	29	スポーツ観戦 (相撲・サッカー・野球など)	2.2%	4.3%	↓	30	能、歌舞伎、文楽	2.0%	4.1%	↓	31	殺陣道・忍者・侍体験	1.5%	3.9%	↓	32	習字、書道	1.2%	3.0%	↓	33	和太鼓、お琴、三味線	0.9%	2.4%	↓	34	生け花・草道	0.8%	2.0%	↓	35	武術(空手、柔道)	0.6%	1.6%	↓	36	舞踊	0.5%	1.4%	↓	37	座禅	0.5%	1.5%	↓

大阪で楽しんだことの割合が大阪以外で楽しんだことに比べて高いか低いかわかる

↑ …高い
↓ …低い

【大阪で楽しんだこと N = 3,914】
※大阪訪問者数

【大阪以外で楽しんだこと N = 3,675】
※大阪にしか行かなかった人を除外した数

出典:大阪観光局
訪日外国人旅行社の動向把握にむけた関
西空港出口調査 2024年度

8. 舟運利用者数の推移

- 2018年度までは、主にインバウンドの利用者の増加に伴い、右肩上がりに増加。(120万人/年に到達)
- 2019年度から2020年にかけて、新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の影響により利用者は減少。
- 2021年度から徐々に利用者数が増加し、2023年度にはコロナ以前のピーク時を超えた。(130万人/年に到達)

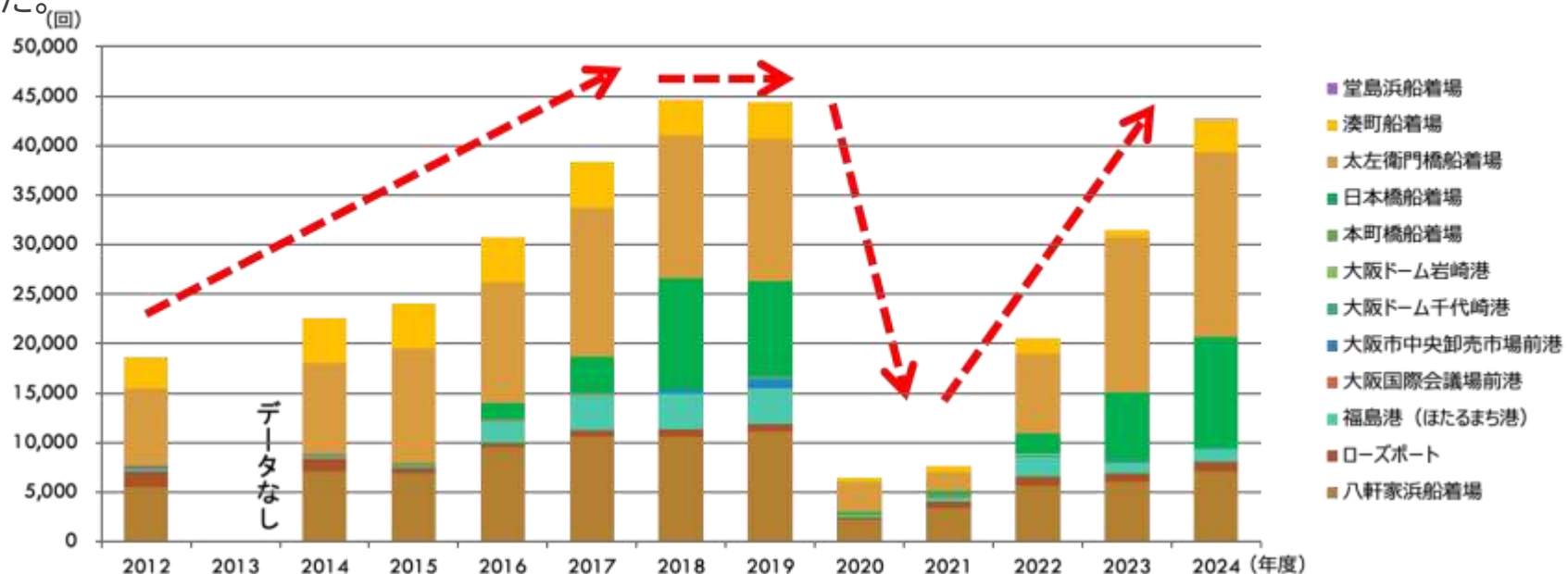
年 度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
利用者数(人)	498,448	598,534	780,043	864,841	1,198,570	1,226,954	1,014,457	65,981	93,652	548,804	1,334,526	1,364,991
対前年増加率	-	1.20倍	1.30倍	1.11倍	1.39倍	1.02倍	0.83倍	0.065倍	1.42倍	5.86倍	2.43倍	1.02倍
うちインバウンド【推計】	101,464	120,069	254,000	397,586	709,205	625,955	516,789	-	-	-	-	-
インバウンドの占める割合	20.4%	20.1%	32.6%	46.0%	59.2%	51.0%	50.9%	-	-	-	-	-

※2020年度以降は国内利用者とインバウンドの総数



9. 船着場利用実績の推移

- 2019年度までは緩やかな上昇傾向にあったが、2020年度(1月～6月)に新型コロナで各舟運事業社が運休した影響により、発着回数も激減。
- 2021年度から2023年度にかけて前年比1.5倍以上で発着回数が増加し、2024年度には2019年度実績並に回復した。



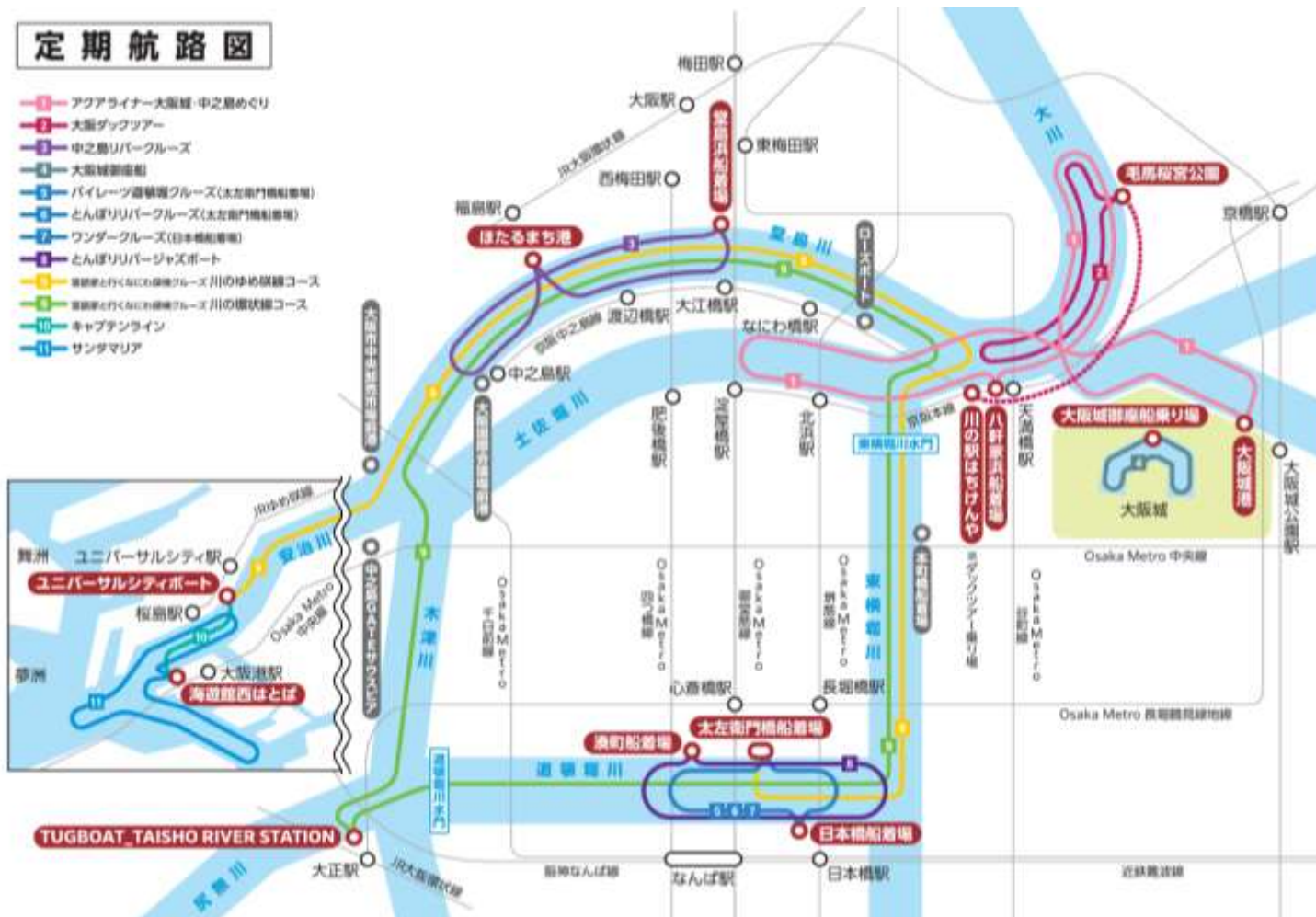
発着回数	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
堂島浜船着場	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4
湊町船着場	3,228	-	4,616	4,494	4,469	4,616	3,631	3,682	443	682	1,598	753	3,303
太左衛門橋船着場	7,781	-	9,190	11,580	12,292	15,046	14,437	14,473	2,977	1,894	8,048	15,758	18,618
日本橋船着場	10	-	8	32	1,576	3,649	11,527	9,555	292	222	2,000	6,863	11,230
本町橋船着場	-	-	-	202	76	42	38	29	20	193	87	58	80
大阪ドーム岩崎港	39	-	15	33	7	8	7	5	29	15	160	49	32
大阪ドーム千代崎港	26	-	17	94	16	38	40	348	19	32	42	28	37
大阪市中央卸売市場前港	144	-	86	22	5	36	347	838	1	26	25	21	37
大阪国際会議場前港	136	-	57	72	100	76	74	51	30	102	95	50	26
福島港（ほたるまち港）	165	-	299	98	2,168	3,599	3,623	3,550	179	466	1,922	1,001	1,259
ローズポート	1,624	-	1,198	461	411	624	769	759	214	665	971	921	978
八軒家浜船着場	5,511	-	7,138	6,926	9,584	10,609	10,805	11,132	2,235	3,344	5,642	6,015	7,051
計	18,664	-	22,624	24,014	30,704	38,343	45,298	44,422	6,439	7,641	20,590	31,517	42,635

*水都大阪コンソーシアム調べ

10. 観光船の航路

【大阪市内河川の航路の現状】

- 航路は、中之島東部から大川の桜ノ宮、大阪城港と道頓堀川エリアに集中。
- 川幅が狭く、船舶の通航方法や制限事項等を定めた航行ルールがある。
- 桁下高さの低い橋が多く、潮位の高い時があるため、中之島の東西をつなぐ定期航路で航行できる船が少ない。



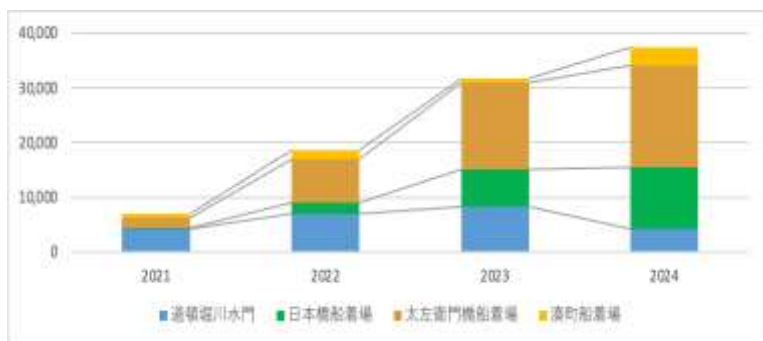
11. 舟運の安全の状況と対応

■事故やインシデント等の発生現状

- 事業船(貨物船など)と観光船等が共存している中、多様な水面利用者が増加し、高速で航行するなど一部で不適正な水面利用も増えていることから多くのインシデントが発生していると考えられる。
- 今後も、舟運活性化等により船舶が増加することで、事故やインシデントも増加する恐れがある。
- 報告があった主なインシデント等は以下のとおり。
 - 船舶同士の接触やニアミス
 - 係留船への接触
 - 高速走行船による接触等の懸念
 - 船着場以外からの乗降
 - 不適切な係留
 - 河川への飛び込み
 - 高速航行での引き波による他船舶の破損、転覆等

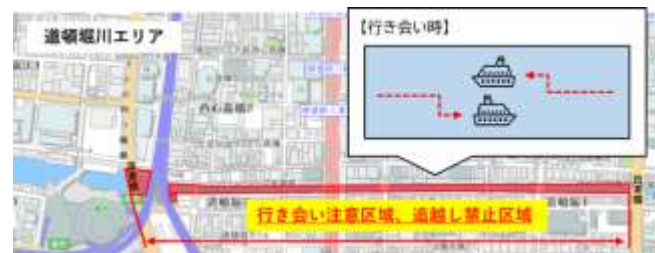
■道頓堀での舟運航行数(水門通過船数)

- 道頓堀川水門においては2021年から2023年まで前年比1.5倍程度で船舶航行数が増加。2024年は水門工事に伴う閉鎖期間があり一時的に減少するものの、船着場の利用は2021年から毎年増加した。



■道頓堀の航行ルール(の確立)

- 2007年に河川水上交通の安全と振興に関する協議会において策定された「河川水上航行ルール(一級河川淀川水系の指定水域における船舶等の通航に関する指導指針)」について、近年の水面利用者の増加等をうけて道頓堀川エリアでの改正が2025年より施行的に実施されている。
- 改正内容
 - 右側通航の徹底
 - 「行き会い・追い越し禁止区域」の変更
 - 徐行区域の設定
 - 行き会い時及び船着場付近の通行方法の明文化



出典:水上航行ルール(R7年大阪府)

12. 万博を契機とした主な取組み

- 2025年の「大阪・関西万博」を契機に、船着場や大堰閘門の開設などのハード整備が進むとともに、OSAKA リバーファンタジーや橋梁部のライトアップ、万博航路の促進などにより、新たな水辺の魅力が創出された。

	主な取組み
舟運(万博航路)	<ul style="list-style-type: none"> ・初の海上開催となる2025年大阪・関西万博会場となる夢洲には棧橋が設置され、船での往来が可能になった ・大阪市内中心部から夢洲までの航路を新エネルギー水素燃料電池船「まほろば」やミヤクミヤクラッピングの船が行き交った ・2025年3月淀川大堰閘門「淀川ゲートウェイ」開通、十三船着場供用開始 ・2025年4月海川接続の拠点として中之島GATEサウスピア開業 ・SOCでは、2023～24年に万博航路についての社会実験を実施。2025年は万博航路の普及促進を支援
万博時の水辺のにぎわい(夜間景観)	<ul style="list-style-type: none"> ・安治川水門・天保山大橋、阪神高速環状線橋脚のライトアップ ・2025年3月から大阪府市による万博重点事業「OSAKAリバーファンタジー」を開催(26年2月末まで実施予定)
公民連携	<ul style="list-style-type: none"> ・経済界・行政が一体となって開催する「まちごと万博」へ参画



中之島GATEサウスピア



淀川大堰閘門 淀川ゲートウェイ



OSAKAリバーファンタジー(八軒家浜)



OSAKAリバーファンタジー(東横堀川)



万博航路チラシ

13. 世界の水の都の再生①

	大阪	ロンドン	パリ	バンコク	蘇州
国	日本	イギリス（首都）	フランス（首都）	タイ（首都）	中国
愛称	Aqua Metropolis Osaka	水都に特化したものはない	水都に特化したものはない	Venice of the East	Venice of the East
人口(2023年)	約276万人	約895万人	約209万人(郊外含まず)	約547万人	約512万人
面積	約225km ²	約1,572km ²	約105km ²	約1,568km ²	約8,488km ²
主な施設	・大学:13校	・大学:15校以上 ・世界遺産:4件	・大学:15校以上 ・世界遺産:1件	・大学:15校以上	・大学:15校以上 ・世界遺産:1件
舟運	受付窓口にて予約制の定期観光船やチャーター船が運行している。	・オンライン予約可能の定期航路が多数。 ・メトロ・トラム・バスなどと一体的に運営されているロンドンリバーバスがある。	・オンライン予約可能の定期航路や、24時間乗り放題の船もある。 ・2026年にはパリと郊外を結ぶ民間主導の水上公共交通網が開通予定。船着場とメトロは徒歩5分以内	・観光客も市民も使えるチャオプラヤーエクスプレスボート社がある。 ・2021年からEV船が就航し、通勤・通学で使用されている。	・歴史的なエリアでは手漕ぎ船を中心とした観光船が多く、バイエリアではナイトクルーズが人気。
再生のポイント	・戦後、水質は悪化・暮らしと水辺が分断されるも、1970年代末には水質が改善、2000年代は水辺の公共空間を中心に再生。2009年以降、公民連携による水辺の賑わいづくりが継続中。	・1980年代にロンドンドックランズ開発公社設立により荒廃地化したテムズ川沿いの港湾地区(ドックランズ)を再生。 ・住宅・オフィス・公共スペースに転換され、イギリス第2の金融街や観光地としても賑わっている。	・2016年にはセーヌ川両岸を車道から歩行者空間化し、市民が水辺を親しめる空間に。毎年夏にはパリビーチとして砂浜が出現。 ・水質浄化や緑化にも注力し、環境配慮型の再開発として進行中。	・街を縦横に流れるチャオプラヤー運河とその支流によって水運が発達。現在でも水上バスや水上マーケットなどが市民にも観光客にも人気。 ・2020年にはスラム街だったオーンアン運河沿いをウォールアートと飲食、音楽の街へと再生した。	・約2500年の歴史を持つ「東洋のベニス」と呼ばれる中国で最も河と橋が多い街。長江と湖によって街中に網目状に運河が伸び、水上交通が盛んだった。 ・歴史的なエリアがある一方、工業園区では開発が進み、モダンなバイエリアとなっている。
					
		出典:ロンドン交通局	出典:パリ観光局	出典:タイ国政府観光庁	出典:蘇州市公式観光サイト

13. 世界の水の都の再生②

	サンアントニオ	アムステルダム	オスロ	ビルバオ
国	アメリカ	オランダ（首都）	ノルウェー（首都）	スペイン
愛称	River City	City of Canals / Venice of the North	Oslofjord(オスロ フィヨルド)	水都に特化したものはない
人口 (2023年)	約149万人	約92万人	約72万人	約34万人
面積	約1,205km ²	約219km ²	約454km ²	約41km ²
主な施設	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:15校以上 ・世界遺産:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:2校 ・世界遺産:1件 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:2校 (他 単科大学複数) 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学:15校以上
舟運	<ul style="list-style-type: none"> ・リバーウォークでは1社がナレーション付きの観光船と1時間間隔のシャトルを運行している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メトロ・トラム・バスなどと一体的に運営されているアムステルダム市営交通の船がある。 ・サップや貸出ボートなどミニマムな水上交通あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィヨルドをめぐる観光船や、中心地とすこし離れたエリアをつなぐ公共船あり。(美術館の入場や公共交通機関の乗車・乗船ができる観光パスでも利用可能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・水辺のランドマークをめぐる観光線が就航。
再生のポイント	<ul style="list-style-type: none"> ・2000年代から市民参加型の水辺再生プロジェクトがスタートし、行政と市民をつなぐ地方政府機関リバー・オーソリティが活躍。 ・市民の誇りになるだけでなく年間観光客数も増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちの中心部に縦横に運河が流れ、ハウスボートや水上住宅、水辺でのイベントなど暮らしと水辺が密接。 ・東部や北部では造船所跡地等を再開発してクリエイティブや循環型社会の拠点となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・湾岸エリアと市街地が分断されている課題解決のため2000年代から進められたプロジェクトにより再生。 ・大規模なプロジェクトのなかに、生活のための空間の視点が織り込まれ、パブリックライフの実現が目指されている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・荒廃・汚染されたネルビオン川を中心に、アートと環境をテーマに美術館誘致や水質改善を行い、工業都市から文化都市へ再生した。 ・ビルバオ効果と呼ばれるように都市再生の成功例として知られる。
				
	出典:サンアントニオリバーウォークIG		出典:Den Norske Opera & Ballett photo:Erik Berg	